

東京学芸大学 コンソーシアム型プロジェクト



令和2年度シンポジウム

子どもの困難と学習保障 ～教育協働は子どもを救えるのか～

2021年 3月 20日 (土)

13:00～17:00

オンライン開催

東京学芸大学では、令和2年度より、「子どもの社会資源格差を乗り越える教育協働システムに関するコンソーシアム型研究開発プロジェクト（通称コンソーシアム型プロジェクト）」を開始しました。

このプロジェクトは、平成27年度から令和元年度の5年間、東京学芸大学が取り組んできた『附属学校等と協働した教員養成系大学による「経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒」へのパッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト』（通称パッケージ型支援プロジェクト）の成果を引き継ぎながら、さらに発展的に研究開発を進めるものです。

本シンポジウムでは、プロジェクトの実践に関わってきた大学生や、卒業して学校や民間企業等の様々なフィールドで活躍しているOB・OGたちに実戦から学んだことを振り返ってもらうことを通じて、「子どもの貧困」「虐待」「不登校」といった社会・教育課題への向き合い方、学校教員・教育支援人材養成の課題と展望について議論します。

また、学校現場におけるカリキュラムマネジメント、地域との協働、多職種協働の実践事例の共有を通じて、“見えない”“見えにくい”と言われる現代の子どもの困難に寄り添う学校や地域づくり、困難下の子どもの学びを保障する教育協働のあり方について考えます。

教育・福祉領域をはじめ、子どもの学びや育ちに関心を寄せる多くの方々のご参加をお待ちしております。

参加費無料 定員300名

事前申し込みをいただいた方には、
シンポジウム参加用のURLを
お送りします。

事前申し込みはこちらから

<https://forms.gle/J6MJ969BFyLquYaY6>
ページから入力フォームにアクセスしてください



対象：学校教員、教育支援専門職（スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等）、教育委員会関係者、NPO等の教育支援活動団体関係者、貧困支援に関わる民間団体・企業、地域での支援者、大学教員、学生、市民

プログラム

【オープニング】(13:00-13:15)

学長挨拶	國分 充(東京学芸大学長)
文部科学省挨拶	寺門 成真(文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官)
プロジェクトの概要説明	入江 優子(東京学芸大学コンソーシアム型研究開発プロジェクト副主査・准教授)

【第一部】多世代で考える子どもの困難さと学生の学び

話題提供「実践で直面する子どもの困難と自身の学び」(13:15-14:00)

プロジェクトに参加した現役学生から	今瀬 耕佑(東京学芸大学教職大学院2年)
	稲田 優輝(東京学芸大学4年)
プロジェクトに参加したOB・OGから	岡 虹曜(公立中学校教諭)
	近藤 生也(会社員)
沖縄で活躍する現役学生から	佐々木 善基(名城大学3年)

フロア対談「学びを支える大学の環境構築」(14:00-14:45)

<コーディネーター>

田嶋 大樹(東京学芸大学コンソーシアム型研究開発プロジェクト特命助教)
小林 拓哉(東京学芸大学コンソーシアム型研究開発プロジェクト特命助教)

<休憩>(15分)

【第二部】“見えない”“見えにくい”を乗り越える新しい「学校」のかたち 事例報告(15:00-15:45)

・校内の協働事例「困難校におけるスタートプログラムの開発と授業改善の必要性」	大澤 克美(東京学芸大学教授)
	井上 真理(公立小学校教諭)
・地域学校協働事例「“しんどさ”に地域と向き合うコミュニティ・スクールの実践」	向本 博俊(奈良県御所市立大正中学校長)
・多職種協働事例「多様性を前提とした附属学校であるための多職種協働実践」	小岩 大(東京学芸大学附属竹早中学校教諭)

パネルディスカッション(15:45-16:45)

貧困・虐待・不登校-困難下の子どもの学びを保障する多職種協働の展望

<パネラー>

山野 則子(大阪府立大学 教授)
増沢 高 (子どもの虹情報研修センター研究部長)
松田 恵示(東京学芸大学理事・副学長)

<コーディネーター>

加瀬 進(東京学芸大学コンソーシアム型研究開発プロジェクト主査・教授)

【クロージング】(16:45-17:00)

講評 朝倉 隆司(東京学芸大学教授)

開催形式 オンライン開催

※シンポジウムの内容や申し込みに関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。
東京学芸大学コンソーシアム型研究開発プロジェクト MAIL:ccss@u-gakugei.ac.jp